



△つがいの鶴が羽を広げているような姿に見える鶴の舞橋は津軽富士見湖の湖面に美しく映し出されます。

特集

橋をつなぐ

鶴田町にある橋といえば、木造の三連太鼓橋としては日本一の長さを誇る「鶴の舞橋」です。長さは、全長300メートル。樹齢150年以上の青森産ヒバ700本が使用されており、木の温もりが感じられ、周辺の自然環境や景観と調和する造りとなっています。

軽富士見湖の湖上に設置されています。橋の途中には、100メートル間隔で、210平方メートルと81平方メートルの大小2つのステージが設けられています。これらのステージは、雄と雌の鶴のつがいをイメージして作られており、遠くから眺めると橋全体の美しいアーチと相まって、つがいの鶴が仲睦まじく空を優雅に舞う姿に見えるとも言われています。

また、鶴の舞橋の背には「津軽富士」と呼ばれる岩木山がそびえ立ち、津軽富士見湖の湖面に「逆さ富士」として美しく映し出されます。ゆるやかなアーチを描く三連太鼓橋は、巖鬼山、鳥海山、岩木山の三峰で形成される岩木山を模しており、天候が悪く湖面に岩木山が映らない日でも、湖面に映し出される橋の影を岩木山に見立てて観賞できるようにになっています。

このように、鶴の舞橋は、広い津軽富士見湖の湖上に周辺の自然や景観、産物との「つながり」を持つように、緻密に計算されて造られた建造物なのです。

JR東日本「大人の休日倶楽部」のCMで全国的に有名になった鶴田町の観光名所「鶴の舞橋」。今や日本全国のみならず、海外からも観光客が訪れ、鶴の舞橋を訪れる観光客は、前年度比約2.4倍の約4万5千人（平成28年7～11月）です。

この流れを止めることなく、この先もずっと、多くの人々の心と記憶に鶴の舞橋をとどめておいてもらうために、何が必要なのか、何が大切なのか。それを考えるのが今訪れています。



鶴の舞橋が誕生するまで

昭和63年、農林水産省では農業と農村の健全な発展を図るため、地域資源を活用し、溜池などの水利施設の整備を進める「農業水利施設高度利用事業」を創設しました。

鶴の舞橋がかかる廻堰大溜池は、県内最大級の農業用溜池であり、当時から豊かな生態系や美しい景観に恵まれていました。町では、平成元年に同事業（「県営つがる富士見地区農業水利施設高度利用事業」として採択）を導入し、廻堰大溜池を活用したまちづくりに取り組み、大溜池周辺の施設や環境を整備しました。

鶴の舞橋は事業の核として、平成3年から3年の工期をかけて建設されました。総事業費は約2億6000万円。県産の一等ヒバ材から、丸太3000本、板材3000枚を使用しましたが、橋建設の基準に見合うこれだけのヒバを確保するのは大変な苦労があったといえます。

こうして、全長300メートルの日本一長い木造の三連太鼓橋が鶴田町に誕生し、公募により橋の名前が「鶴の舞橋」に決定。平成6年7月8日に開通しました。

①1本数10万円もする長さ10メートルほどのヒバ材を、棟梁たちがチェーンソーで1本1本切っていました。「もし1センチ足りなくなったらどうしよう」と気をもみながら、地道で過酷な作業が現場では行われていました。②③建設途中の鶴の舞橋④平成6年7月8日に行われた開通式。小雨が降る中、招待者約700人が鶴の舞橋の開通を祝いました。

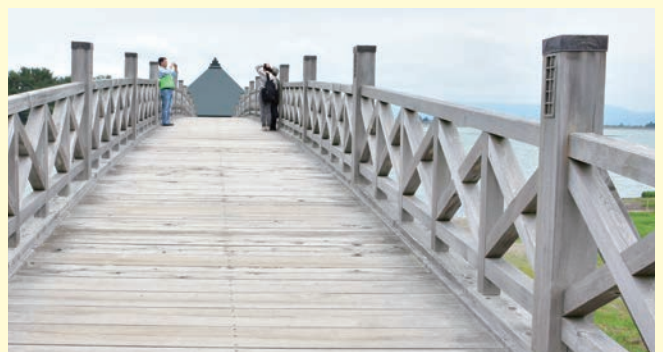


知ってました？

橋のデザインにも一工夫

鶴の舞橋の手すりなどの木組みにはクロスのデザインが取り入れられています。和を思わせる格子ではなく、クロスにすることで和洋折衷の雰囲気を出し、海外からの観光客にもなじみやすいようになっており、「国際交流のまち」にふさわしいデザインになっています。

橋の高欄には、ホテルをイメージした青い照明器具が埋め込まれています。夜になるとライトアップされた優雅な橋の姿が湖面に映し出されるようになっています。



橋をまちづくりへつなぐ

基調講演
足尾大淵池と鶴の舞橋
農林水産省 東北農政局津軽土地改良建設事務所 所長 佐藤 勝彦
基調講演
木の文化と木橋
金沢工業大学 教授 本田 秀行

全国木橋サミット開催

△大学教授や木橋を管理する市町村の職員が、木橋を活用した地域活性化や保全策を話し合ったパネルディスカッション

8月24日(木)、町国際交流会館で「全国木橋サミット2017 in つるた」が開催されました。「地域資源を活用したまちづくりの推進」をテーマに、有識者による木橋の文化や歴史に関する基調講演や、木橋を使った地域活性化や保全策を考えるパネルディスカッションが行われました。

基調講演では、日本大学理工学部 関文夫教授が、「鶴の舞橋は広い空、スケール、シルエットの3つがそろった美しい橋で情景に訴えるものがあります。また、広い空の中に三連太鼓橋が美しいアーチをなしています。鶴の舞橋には豊かな空間と多彩な視線が含まれているため、いろいろな場所から橋が見れるように設計されており、風景が多様化されています」と鶴の舞橋を高評価していました。

パネルディスカッションでは、鶴の舞橋の点検などを行っている秋田県立大学の佐々木貴信教授が橋の維持管理の問題について、「全国に橋は約73万ほどあるが、建設後、50年以上を経過する橋の割合は10年後には44%に急増することが試算されている。市町村が管理している橋は全体の7割を占め、市町村の経済的負担も極めて大きくなる」と言及。その上で、「木材の耐久性は、辺材に比べて心材の方が高い。鶴の舞橋は、一見

ボロボロには見えるが、心材はしっかりしている」と述べ、鶴の舞橋の維持管理については、「今後の改修工事の際には、橋桁の防腐対策や床板の交換を可能にする構造の検討、水仕舞いなどを同時に行うことが望ましい」とコメントしました。

日本三名橋の一つ「錦帯橋」がある山口県岩国市職員の蔵重隆之氏は橋の伝承についてコメント。蔵重氏によると、昭和の時代、錦帯橋は台風により流失し、岩国の市民は再建に向けて、熱意をもって真剣に取り組みました。時代が進むと、橋脚の形式変更により橋の管理の手間が要らなくなりましたが、その分、市民の橋への関わりが希薄化し、地元への誇りがなくなっていたといいます。そこで岩国市では、48年ぶりとなる橋の大規模改修を行い、再び市民の地元の橋への興味や思いを呼び起こさせました。橋の架け替え以外にも、橋の木材の見学会や工事の見学会、解体材の見学会など全国から注目を浴び、観光客が増加したといいます。

サミットを通してさまざまなテーマが見えてきました。当町でも、優美な鶴の舞橋の姿を見せ続けていくために、そして、住民へ地元の橋への愛着を持ってもらうために、最善の策を考えていかなければなりません。

■木橋サミット2017 in つるた 講師・パネルディスカッション参加者

- ・金沢工業大学 工学部環境土木工学科 本田 秀行 教授 (旧岩木町出身) ・日本大学 理工学部土木工学科 関 文夫 教授 (板柳町出身)
- ・農林水産省 東北農政局津軽土地改良建設事務所 佐藤 勝彦 所長 ・秋田県立大学 木材高度加工研究所 佐々木 貴信 教授
- ・特定非営利活動法人 あおもりふるさと再生機構 船越 和幸 理事長 ・山口県岩国市 錦帯橋課 蔵重 隆之 氏
- ・福島県会津若松市 花と緑の課 物江 隆之 氏、花泉 大輔 氏 ・青森県鶴田町 建設整備課 成田 正利 氏



◁会場には、全国の木橋のミニチュア模型が展示されました。日本大学理工学部
の生徒が作成した鶴の舞橋
の模型も展示され、来場者
が橋の構造や仕組みに見入
っていました。

▷日本大学の関文夫教授による基調講演。鶴の舞橋について、「こんなに広い空、大きな溜池のスケールに呼応した橋はありません。いろいろな場所から橋を眺められ、風景の構図までが計算されています。空間の演出が素晴らしい鶴の舞橋は大いに自慢すべきです」とコメント。



基調講演より

廻堰大溜池と鶴の舞橋

農林水産省東北農政局津軽土地改良建設事務所
佐藤 勝彦 所長

鶴の舞橋がかかる廻堰大溜池（津軽富士見湖）は日本でも最大級の溜池です。廻堰大溜池の貯水量は1100万トン（東京ドーム約9個分）で、大きさは280ha、深さは水が溜まっている所で6メートルあります。

広い水面は美しい景観を織りなすため、廻堰大溜池は鶴の舞橋を引き立てる貴重な自然環境です。しかし、溜池は自然の恵みだけではできないものです。最後の仕上げには人間の努力が必要なのであり、それが堤防です。廻堰大溜池は、貯水量が日本最大級で水面の面積が最大規模であるだけでなく、日本一、人の努力がすぎ込まれた堤防を持っています。

溜池は、農業用水を確保するために、なるべく多くの水を溜めた方がよいものです。また、水が自然に流れるように上部に造らないといけません。廻堰大溜池は、周辺の水田が溜池より下の方に広がっていて、すんなりと水が流れていく絶妙な場所に造られています。

鶴の舞橋と岩木山と溜池が織りなす景色はとても優雅ですが、その中でも溜池は、昔からの人々の苦労の積み重ねであり、現在管理をしている人たちの努力があってのものです。素晴らしい技術があって廻堰大溜池は現在まで残っています。今日では、鶴の舞橋を見るために日本全国からたくさんの人が訪れています。これからも多くの人のマンパワーをつぎ込んでもらいたいです。

Pick Up

廻堰大溜池（津軽富士見湖）

廻堰大溜池は、岩木山を水源とする白狐沢からの自然流水による貯水池であったものを、万治3年（1660年）、弘前藩4代藩主信政が新田開発のために堤防を築き、用水池にしたといわれています。

大溜池の特徴として、堤防の延長が4.2キロメートル、堤高約7メートルと他に例がなく、特に堤防の長さは日本一で、県内では最大の貯水湖として、周辺の農業にとって欠くことのできない重要な役割を果たしています。また、湖面に津軽富士・岩木山を映すことから、「津軽富士見湖」とも呼ばれています。

四季折々さまざまな景色を見せる津軽富士見湖は、平成22年には農林水産省の「ため池百選」、平成27年には環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定されました。

津軽富士見湖の龍神伝説

津軽富士見湖には語り継がれる伝説があります。今から約600年前、鶴田町を統治していた清水城の城主、間山之守忠勝は、隠里の娘・白上姫と出会い、恋に落ちました。しかし、忠勝は他の女性と結婚。姫は悲しみのあまり大溜池に身を投げ、その遺恨は白龍となり、忠勝を苦しめ続けたといわれています。



橋をおもてなしでつなぐ



△観光客の多くが、鶴の舞橋と津軽富士見湖の景色をカメラや携帯電話で撮影していきます。

大人の休日倶楽部とは？

JR 東日本および JR 北海道の運賃や料金が割引になるほか、各種特典のサービスや、JR 東日本や JR 北海道のフリーエリアで広く自由に乗り降りできる会員限定の切符「大人の休日倶楽部パス」を使用できます。JR 東日本全線・JR 北海道全線（新幹線を含む）に加え、青い森鉄道線などの特急・急行・快速・普通列車の普通車自由席および BRT（バス高速輸送システム）が5日間乗り降り自由になります。

JR 東日本「大人の休日倶楽部」で、女優の吉永小百合さんと鶴の舞橋が共演したCMが公開されて以降、鶴の舞橋の認知度が上がり、国内のさまざまな旅行ツアーの企画に組み込まれ、連日、多くの観光客が訪れています。

町ではこの流れを町の観光振興につなげようと、列車を利用する観光客が増加していることを踏まえ、JR 陸奥鶴田駅前から鶴の舞橋がある富士見湖パーク間を期間限定で片道1000円でタクシーが運行できるようにしました。また、町の観光協会と協力し、駅に併設するコミュニティプ

ラザを利用して観光案内コーナーを設け、鶴の舞橋をはじめとする町の観光案内や手荷物の預かり、鶴の舞橋を活用したお土産品の販売を行うなど観光客のさまざまなニーズに応えるようにしています。

加えて、私たち町民にもできることがあります。それは「おもてなし」の心を持つことです。観光客と会ったら、「ようこそ鶴田町に来てくれました」と歓迎の気持ちを込めて「こんにちわ」とあいさつをしたり、写真を撮ってあげてもいいのです。私たちが観光客の皆さんを「おもてなし」する心がけが大事なのです。

鶴の舞橋まで片道1000円で行くことができるタクシーが好評



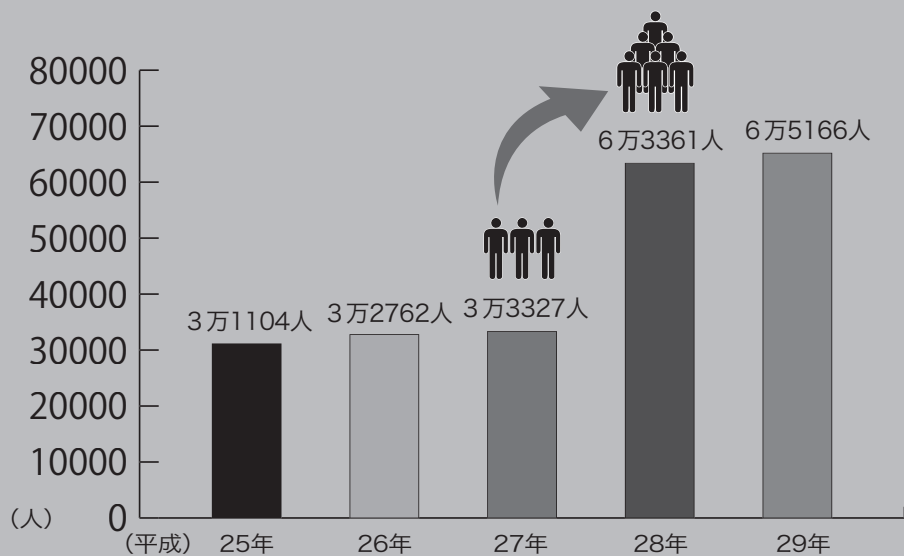
「大人の休日倶楽部」を利用
山下 さん・栗原 さん

私たちはJR「大人の休日倶楽部」を利用して、埼玉県から日帰りで鶴の舞橋を見に来ました。昨年、吉永小百合さんが出演したCMを見て、「いつか必ず鶴の舞橋を見に行きたい」と思っていたので、今回やっとその願いが叶いました。鶴の舞橋までは駅前からタクシーを使って来ました。片道1000円で来れるので料金もお得ですし、相談をすれば、帰りの電車の時間に合わせて駅まで帰れるのでとても便利だと思います。



【グラフ】 鶴の舞橋を訪れる観光客数（平成25～29年） ※平成29年は8月31日現在のデータ

平成25年から平成27年までは、3万1000～3000人ほどと横ばいの状態が続きました。女優の吉永小百合さんが共演した「大人の休日倶楽部」のCMが放送された平成28年6月以降には観光客が増加し、観光客数は6万3361人と前年比約2倍に達しました。今年に入ってから観光客数は伸び続けており、8月末時点で前年を上回っています。



△鶴の舞橋の側にある募金箱にも多くの観光客の皆さんが立ち寄ってくれます。

観光ガイドが鶴の舞橋をおもてなし

町では、鶴の舞橋を訪れる観光客の増加に対応するため、7月から11月末まで鶴の舞橋観光ガイドを設け、鶴の舞橋や津軽富士見湖、周辺の観光施設の案内を行っています。県内外から旅行ツアーで訪れる団体客や、「大人の休日倶楽部」の期間を利用して訪れた方々など多くの観光客にガイドは好評です。



（写真左）鶴の舞橋のステージで津軽富士見湖に語られる伝説について観光客に解説するガイド（左）

（写真右）鶴の舞橋の概要を説明するガイド（左）



青森市から遊びに来た
松谷さん 家族

鶴の舞橋の景色を見たくて家族で来ました。人の手でこれだけの長さの木の橋が造られたのには驚きました。木の橋なのに頑丈に造られていてすごいですね。津軽富士見湖も大きいですし、橋と湖との景色がとても美しいですね。

天気も良くて景色もいいですし、家族で気持ちよく橋を歩けました。



群馬県からお越しの
吉田さん 親子

今回、観光ガイドの方に鶴の舞橋を案内してもらいました。私たちだけで橋を渡ると、ただ歩くだけになってしまいますが、ガイドの方が橋や津軽富士見湖の歴史、周辺の自然の特徴などを丁寧に解説してくれるので、途中途中で立ち止まって素晴らしい景色に入っています。聞いてみないと分からないことばかりなので、大変助かりました。鶴の舞橋は本当に素晴らしい所ですね。

橋を新たな可能性へつなぐ



△鶴の舞橋に並べられたキャンドルの炎が幻想的な空間を創り出していました。

1200個のキャンドルがつくる鶴の舞橋の魅力

9月9日（土）、富士見湖パークで、「星空のキャンドルナイト」が開催されました。鶴の舞橋や周辺の路上には、1200個のキャンドルが並べられ、夜の津軽富士見湖が幻想的な空間に彩られました。

の炎に包まれた空間に響き渡る音色や歌声に訪れた観客が聞き入っていました。

岡代表は「元々は「楽しんでもらいたい」という思いがあり、キャンドルできれいな空間を創りたいという思いがきっかけで、津軽富士見湖は空が広いので星がきれいに見える場所です。鶴の舞橋をキャンドルで明るく照らし、地上の星（キャンドル）と空の星の両方を楽しんでもらいたかった。鶴の舞橋の違う一面を見てもらい、これからのたくさんの人に来てもらいたいです」と話していました。

5年目を迎えたキャンドルナイトは、「鶴田町を盛り上げたい」という思いを持った町民が集まった「つるた街プロジェクト（岡詩子代表）」が企画。「森のキャンドルタイム」とテーマを付け、会場には、木や緑をイメージした装飾やキャンドルが並べられました。また、大小さまざまな形の瓶やリンゴの木箱を使うなどキャンドルの入れ方や配置など細部にも工夫を施し、さまざまな見せ方を演出。隅々には動物の小物なども置かれ、ファンタジーな雰囲気も作り出していました。

会場では、県内外の作家による作品展示や記念撮影コーナー、スチューベンを使ったスイーツ販売など飲食ブースも設けられました。このほか、県内外のアーティストによる生演奏も行われ、キャンドル

の炎に包まれた空間に響き渡る音色や歌声に訪れた観客が聞き入っていました。

今や、鶴の舞橋は多くの人々が認める鶴田町の魅力になりました。その魅力の価値を今後ますます高めていくためには、私たちがいるような可能性を見出していった方がいいのではないのでしょうか。「どうすればこれから鶴の舞橋をたくさんの人に好きになってもいいのかな」。鶴の舞橋を新たな可能性へとつなげていく発想が求められています。私たちの手で鶴の舞橋の魅力を発信していきましょう。



△会場ではアーティストによるライブも開催



弘前市から来た
吉田さん 家族

鶴の舞橋にたくさんキャンドルが並べられていて雰囲気が良く、いい活用をしていると思います。キャンドルの炎はみんな好きだと思いますし、非現実的な感じがすごくいいですね。

子どもたちもキャンドルのきれいな空間を見れて喜んでいて良かったです。

橋を次世代へつなぐ



△完成させた木橋（手前）と、木橋を造った記念にプレゼントされたミニチュアの木橋のプラモデルを持つ児童たち

木橋造りで育まれる 子どもたちの「愛橋精神」

木橋サミットでは、鶴田小学校の6年生60人を招いて木橋造り体験が行われました。

体験は、イタリアを代表する芸術家、レオナルド・ダ・ヴィンチが考案した橋の造り方を学ぶというものです。児童たちは1・8メートルの棒状の木材を縦横に重ね、その間に木材を挟み込むという手順を5回ほど繰り返していき、アーチ状の木橋を完成させました。完成後は、児童が出来上がった木橋にぶら下がったりして、頑丈さを確かめていました。

講師の日本大学理工学部の関文夫教授は「大きな橋は、たくさんの人たちが力を合わせて細かい材料をつなげて造られるものです」と講評。児童たちは、木橋が出来上がるまでの工程や仕組みを体感したことで、木橋への興味や関心を高めていました。

金沢工業大学工学部の本田秀行教授は、「子どもたちに地元の橋に愛着をもってもらえるようなイベントは大事です」と話します。そのことについて、本田教授は「子どもたちがイベントに参加し、親や友

人など周りの人に、「自分たちで橋を作った」という話をすることで、『私たちが造った橋なんだ』『自分たちが橋を守っている』『自分たちが橋を守っている』という気持ちを持つようになり、その輪がだんだんと広がっていくことで、次の世代に地元の橋が引き継がれる流れができていきます」と説明しました。

さらに、「私は、橋に愛着を持つ『愛橋精神』を大切にしたい」と思っています。確かに木や鉄などの材料で橋を造っていくことは大事ですが、『私たちが橋を守っている』『自分たちが橋を守っている』という気持ちがあれば、そして、そのような精神を育んでいかないと、将来、鶴の舞橋が残っているかわかりません。『私たちの町で私たちの橋を造った』ということが大事なのです。鶴田町の皆さんには愛橋精神を養ってほしいと思います。そうすることで将来もずっと鶴の舞橋が残りに残っていきます。木橋の建設は、木をただ使えばいいだけではなく、多くの人に愛されていくことを含めた文化事業なのです」と話してくれました。



鶴田小学校6年
成田 ことり さん

1500年前も昔に考えられた橋の技術が、今でもこうやって現代の橋に活かされ続けているのがすごいと思いました。そんなに重くない木材でもこのような頑丈な橋ができるのは、レオナルド・ダ・ヴィンチさんはすごい技術を発見したんだなと感心しました。



△組み立てた木材が崩れないように慎重に持ち上げる児童